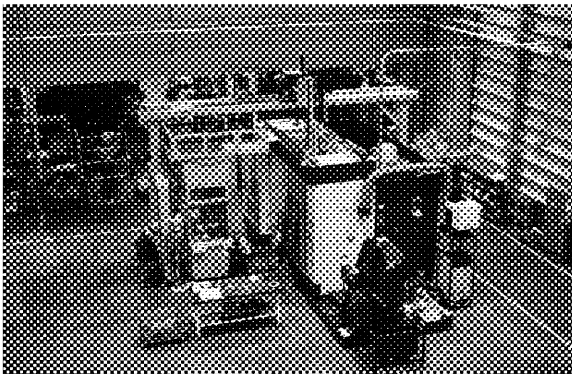
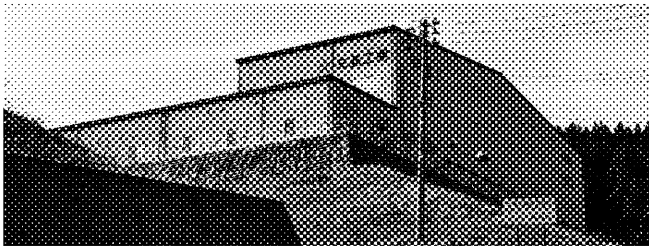


三星工業が浦川原工場増築

産口ボ部品生産増強



三星工業は浦川原工場のボットや半導体製造装置を拠点に、産業用ロボットや真空ポンプの部品の生産を拡大し、4月に小型M

複合旋盤・自動化対応進展

【新潟】三星工業（新潟県上越市、有間健太郎社長）は浦川原工場（同市）の生産能力を増強する。主力の産業用ロボット向け部品で強い増産要求に応じるため同工場を増築し、複合旋盤やマシニングセンター（MC）の追加、一部工程の自動化を実施した。同工場の生産能力は月間出荷額2億円が限界だが、2024年春をめどに同2億5000万円まで引き上げる。総投資額は土地造成・建築費や加工機購入などで10億円。

三星工業は浦川原工場のボットや半導体製造装置を拠点に、産業用ロボットや真空ポンプの部品の生産を拡大し、4月に小型Mの手がける。C、6月に複合旋盤と特にロボット旋盤の計4台を設置しト関連は製品の種類も増加して手狭となつてきた。そこで3日に1回ほど人手で行っていた生爪交換を増築を実施。延べ床面積は50〜300個

①増築した三星工業浦川原工場
②同工場の増築部分では、本格稼働に向け複合旋盤を丹念に調整

生産自動化を拡大し、「長らく量産加工を強みにやってきたが、いずれ来るであろう人手不足に先手を打ちたい」（有間社長）という。

増設部分は一部2階建ての鉄骨造り。吹き抜け部分には302の小部屋がある自動倉庫を設置した。2階へは重量1トの荷物も運べる大型エレベーターを整備。2階は当面、倉庫として活用する。

同社の23年3月期売上高は70億円を過去最高だった。24年3月期は、部品不足に伴う工作機械メーカーの発注減によるスピンドル事業の落ち込みにより64億円と予想している。産業用ロボットの需要は今後も旺盛と見ている。